

---

# 冬に待つ

山羊ノ宮

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

冬に待つ

### 【Nコード】

N6925J

### 【作者名】

山羊ノ宮

### 【あらすじ】

私は駅の改札口で白い息を吐いていた。

「遅いなあ、まだかなあ」

電車が停車する度に、彼がいなかと目を皿のようになっているが、まだ彼の姿は見えない。

もうかれこれ二時間は待っている。

私は駅の改札口で白い息を吐いていた。

「遅いなあ、まだかなあ」

電車が停車する度に、彼がいなかったかと目を皿のようになしてみても、まだ彼の姿は見えない。

もうかれこれ二時間は待っている。

我ながらよくやるなと思いつつも、また手に息を吐き温める。彼に会えると思うと嬉しくて、ついおしゃれして丈の短いスカートをはいてきたのだが、それが間違いだった。

腰が冷えて、痛い。

しかも上からコートを着るので、スカートが隠れて見えない。

失敗したなあと思いつつも、もし彼に『今日は冷えるから、ちよつと何処かによつてこうか?』と誘われでもしたら・・・

きゃー、きゃー、何処に連れていくの?

まだ心の準備が!!!

いや、本当はできているけど・・・やさしくしてね?

うん、やっぱり見えなくてもおしゃれは大切だよ。

「あつ、彼だ」

私が馬鹿な妄想をしていると、彼が電車から降りてきた。

このところ残業続きなのだろうか。

疲れた表情をしている。

重い足取りで一步、また一步と私の方へ近づいてくる。

どうしよう、気付いてくれるかなあ?

私の胸は期待と不安でいっぱいになって、張り裂けそうだった。彼は改札機にカードをかざし、こちらへ来る。

うわあ、気付いちやったか、胸のドキドキが止まんないよ。

そして、彼は何食わぬ顔で私の前を通り過ぎ、家へと向かった。私は彼の後ろ姿に胸をなでおろす。

「よかった」

そして、安堵の息を吐く。

彼に気付かれなかったのは残念だけれど、今の関係が崩れてしまうんじゃないかという不安はぬぐい去られた。

ストーリーカー歴三年。

明日もまた私は待ち続ける。

いつか彼が私に恋に落ちるその瞬間を。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6925j/>

---

冬に待つ

2010年10月15日23時11分発行